

前川区長 記者会見

【会見内容】

- 1 練馬区独立70周年
- 2 中学校入学準備費の入学前支給
- 3 健康づくり事業の充実(区オリジナル健康アプリを配信)
- 4 生産緑地制度の改正(生産緑地地区の区域の規模に関する条例を制定)
- 5 地域おこしプロジェクトの開始

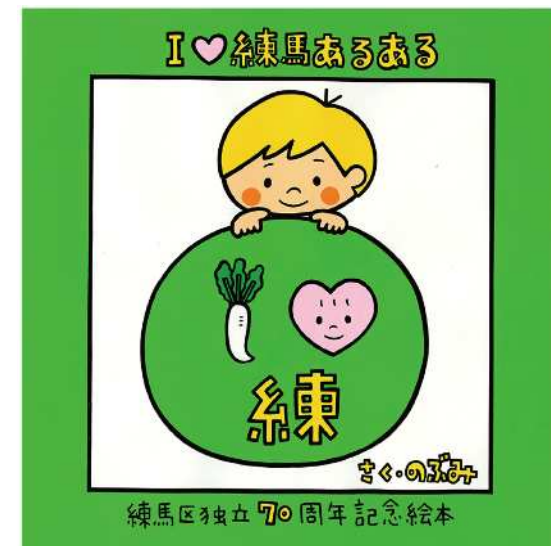
(その他資料)

特別養護老人ホーム等の開設、オリジナルロコモ体操の創作、骨髄ドナー支援制度の創設、障害者福祉の充実

平成29年9月13日 練馬区

広報キャンペーン「I♥️練馬あるある」
多くのメディアの皆様を紹介(掲載)
いただきありがとうございました！

広告換算:新聞・雑誌	18百万円	
TV・ラジオ	148百万円	
WEBニュース等	74百万円	総計240百万円(前年比倍増)



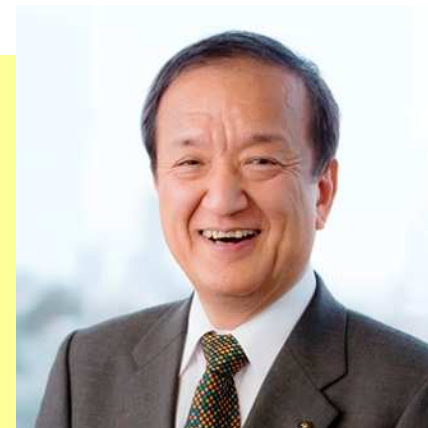
- ・民放ニュース:自虐的な動画がWEB上でも話題で好評価を(練馬と板橋区民にインタビュー)
- ・民放ワイドショー:地域おこしの視点で、落語家志らく(練馬)と八代弁護士(板橋)がスタジオで地元自慢大会を(練馬区は子育てにいいと)
- ・WEBニュース:区の魅力を自画自賛ではなく、トホホとするさじ加減が絶妙である。

1 練馬区独立70周年



- ・70年前、当時の板橋区と板橋区議会において真摯な議論を重ねた上で、独立を可とする議案が満場一致で可決された
- ・そこに至るまでには、先人たちの永く懸命な努力があった。決して忘れてはならない
- ・練馬区は未だ未だ大きく発展すると確信している。70周年の記念すべき年を新たなスタートとして、さらに前に進みたい
- ・区民の皆様が未来に向けて夢を描ける街づくりに本格的に取り組んでいく
- ・練馬区発展の礎を築いた先人たちの渾身の努力によって、練馬区の今日があることに心から感謝しつつ、さらなる発展を目指して全力を尽くす

(練馬区独立70周年記念式典 区長あいさつより)



～大谷康子さんによる独立記念コンサート～



～花火フェスタ～



～記念コンサートと花火～
夏の練馬の新しい文化の可能性を示した



～こどもアートアドベンチャー～



～真夏の第九～

今後の70周年記念事業ラインナップ



みどりの風 練馬薪能



10月14日(土) 午後5時開演
(午後4時15分開場)
会場: 石神井松の風文化公園

演目 狂言「棒縛」 野村萬齋・万作ほか
能 「紅葉狩鬼揃」 梅若万三郎・紀長ほか



第40回練馬まつり・70周年記念パレード



10月15日(日)
会場: としまえん ほか

(同時開催)
ねりまアニメカーニバル
練馬産業見本市ねりまEXPO2017



ねりまユニバーサルフェス2017



【10月】
29日 ノーマライゼーション水泳フェス
会場: 大泉学園町体育館

【12月】
1・2日 スポーツフェスティバル
9日 みんなのUDパーク
17日 オーケストラコンサート
会場: 光が丘体育館、練馬文化センターほか



その他のイベント
2日 障害者フェスティバル
6日～ 障害者ふれあい作品展
13日～ 障害者差別解消法啓発

2 中学校入学準備費の入学前支給

【背景】 中学校入学時は、制服購入等、一時的に出費が重なり、負担が大きいとの声が寄せられていた

【現在の制度】



支給対象

国公立中学校1年生
() 準要保護世帯

認定時期

中学校1年生の6月

支給時期

中学校1年生の8月

【変更後の制度】



国公立小学校6年生
() 準要保護世帯

小学校6年生の6月

小学校6年生の3月

支給時期を約半年早くすることで保護者の負担を軽減する

対象人数: 約950名 支給金額: 26,860円(変更なし)

() 準要保護世帯: 生活保護費受給世帯に準ずる程度に困窮していると認められる世帯

3 健康づくり事業の充実

練馬区オリジナル健康アプリ「ねりまちてくてくサプリ」



区民自身が、健康づくりを気軽に楽しく取り組めるように応援する事業

健康づくりのウィークポイント

1 なかなか行動に移せない

運動や栄養バランスのとれた食事など、大事だと分かっているけど、そういった取組を生活に取り入れることができない。

運動習慣がある割合 約 4 割

栄養バランスのとれた食事が摂れていない人の割合 約 3 割

(いずれもH25練馬区健康実態調査)



2 若い世代にアプローチできていない

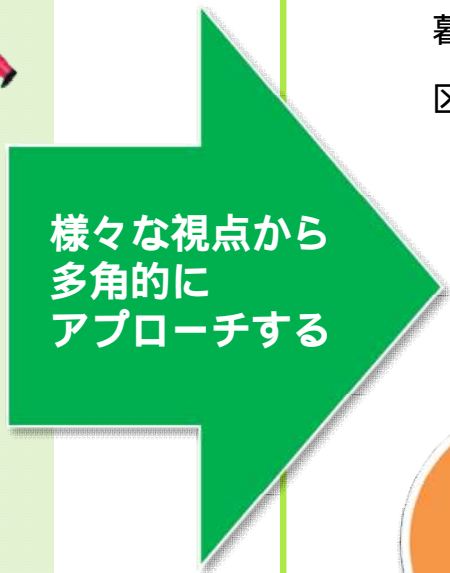
従来の講演会や講習会には若い世代(20~40代)の参加者が少ない。講習会形式では時間や曜日、回数の設定に制限があり、若い世代のアプローチ手法として限界がある。

全年齢対象の講演会・講習への40代以下の参加者割合 1割以下



(H28年度の健康推進課・保健相談所の9事業におけるアンケート結果)

健康的な生活を促すためには、若い世代のライフスタイルに事業を合わせ、若い世代の「興味のある切り口」を盛り込んで事業を展開していく必要がある。



健康アプリのコンセプト

みどりや農などの魅力にあふれた「練馬のまち」を歩くことを中心に、楽しみながら自分のペースで健康づくりに取り組めるよう後押しする。

暮らしの中で、健康づくりを楽しむ

区の様々な事業を健康づくりの動機づけに活用



ウォーキング
+ 多機能型
健康アプリは
都内初

練馬区オリジナル健康アプリ「ねりまちてくてくサプリ」

区民自身が、健康づくりを気軽に楽しく取り組めるように応援する事業

11月1日
配信スタート

「健康アプリ」の概要

一人ひとりのライフスタイルにあった健康づくりを応援するスマートフォンのアプリ。

健康管理に役立つ機能のほか、関係20課の協力による魅力的な練馬の地域情報を紹介し、練馬のまちと健康を楽しめる場面を提供する。

【アプリの機能】

ねりまち
てくてく

健康づくりのツール

記録

- ・ 歩数、血圧、体重など
- ・ 健康診査やがん検診の結果

ウォーキング

区民の自主的な
取組みを支援



役立つ情報を発信

- ・ 農産物直売所や「ねりマルシェ」などのお知らせ
- ・ 健康講座や運動施設情報

動機づけを支援

(お楽しみの提供)

- ・ キャンペーン
- ・ 目標達成応援メッセージ

区の後押し

【ウォーキング機能の利用の例】

1 区内てくてくコース

例) ねりまの散歩道「石神井公園コース」

アプリ地図上にコースが表示され、実際にウォーキングコースを歩ける。

ウォーキングの途中で、チェックポイントに近づくと、ねり丸やのぶみさんのスタンプが発行される。またチェックポイントでは、区内を楽しみながら歩けるよう、練馬の見どころを紹介している。

2 パーチャルてくてくコース

例) 「東海道五十三次コース」

歩数を距離に換算するバーチャルコースは、実際のコースを歩かなくてもコースを踏破できる。

コースの利用を開始し、チェックポイントを通り過ぎると、画面上でチェックポイントの通過が表示される。コースを踏破すると、スタンプが発行される。

3 グループ登録

職場や友人同士のグループで登録することができる。

作成したグループ内で歩数ランキングが確認できる。

【登録推進キャンペーンについて】

アプリを登録した人を対象に、血圧計などの健康支援グッズを抽選でプレゼントする。

期間：平成29年11月から12月の2カ月間

抽選・発送時期：平成30年1月予定

【画面イメージ】



4 練馬区生産緑地地区の区域の規模に関する条例を制定

練馬区の農地の現状

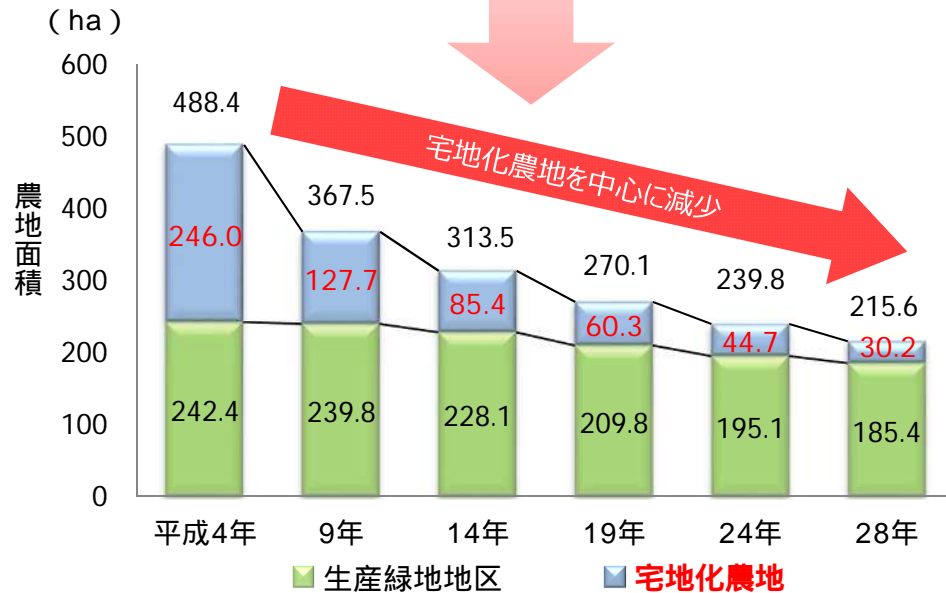
練馬区では、**市民生活と融合した生きた農業**が営まれている

都市農業は、生活に新たな豊かさをもたらすもの

これからの都市生活に必要不可欠



しかし...農地は年々減少



生産緑地地区

公害・災害の防止、都市環境に役立つ農地を計画的に保全し、良好な都市環境の形成を図ることを目的として都市計画に定めた地区

都市農地の保全に一定の貢献

指定要件

現に農作物を栽培している土地

500㎡以上の農地

公共施設用地等の敷地に適している など

小規模な農地は指定できない!

都市農地の保全のためには
関連制度の改善が必要

全国の自治体の先頭に立ち、都市農地保全のための制度改善を国に要望

要望活動が実り、生産緑地法の改正が実現

国への要望

指定生産緑地の改善

面積要件を基礎自治体が設定できるようにすること

道連れ解除（ ）を行わないこと

相続税納税猶予制度の適用農地を貸し出したまま、農地所有者が死亡した際に、買取申出ができるようにすること

規制の緩和

生産緑地の貸借と親族以外の農家の就農を可能とし、納税猶予制度の対象とする措置を講じること

農業生産に関わる防災設備、直売所や農業用施設、屋敷林の用地に納税猶予制度の適用を拡大すること



石井国土交通大臣（左）と前川区長（右）

指定された生産緑地の一部が相続等により指定解除されたときに、残された生産緑地が下限面積を下回った場合は、同時に指定が解除されてしまうこと

生産緑地法等の一部改正

要望が一部実現！

働きかけの結果...

同生産緑地法施行令

市町村が、**条例**により**下限面積を300㎡まで引き下げ**ることが**可能**に

生産緑地内に、営農の継続に必要な施設（直売所・農家レストランetc.）の設置が可能に

運都
用市
指計
針画

同一または隣接する街区内の複数の農地を「一団の農地」として指定することが可能に

練馬区生産緑地地区の区域の規模に関する条例の制定

生産緑地地区の区域の規模を300㎡以上とすることを規定

小規模農地の保全

小規模な農地

対象となる宅地化農地(300~500㎡)は6.3ha、134件(参考)



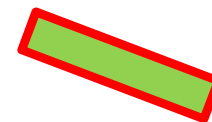
生産緑地地区に関する基準の整備

同一または隣接する街区内に複数の農地がある場合、一団のものとして指定

小規模農地の保全
道連れ解除の減少

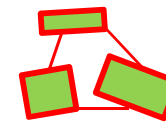
一団の農地の考え方

改正前



総面積で500㎡以上

改正後



合計の総面積で300㎡以上

直売所・農家レストラン等の設置を促進する基準を整備

意欲ある農業者への支援
豊かな市民生活への寄与

直売所



レストラン



今後の予定

引き続き都市農地の保全に向けた取組を実施

都市農地の保全のためには、大きな課題である、**貸借に係る規制緩和が必要!**

貸借した生産緑地にも買取申出制度を拡大

貸借した生産緑地への納税猶予制度の適用拡大

条例の公布・施行

農業者への周知

手続

都市計画決定

10月中旬 ~ 11月下旬

H30. 8月頃
(予定)

5 練馬区独立70周年記念事業「地域おこしプロジェクト」3事業を選定

1 地域おこしプロジェクト創設の経緯・目的

練馬の未来を語る会

区長が地域に赴き、区内の地域活動団体（町会・自治会やNPO、ボランティア団体など）と意見交換する会。
これまでに65回開催。

ねりまビッグバン

まちを元気にするアイデアを区民が持ち寄り、具現化する事業。
平成28年度は、光が丘、谷原2地域で実施し、それぞれ「認知症講演会」や「地域活動見本市」など意欲的な活動が区民主体で実現。

練馬には、
多彩な人材と、
自由闊達な活動の
アイデアが
数多く存在する

自由闊達なアイデアによる、地域に根差した主体的な活動が、区内の至るところで展開されるまちづくりへの取り組みが、練馬の自治を豊かなものにする！

区民の自由な発想による、未来に向けた練馬の発展につながる取り組みを掘り起こす、「地域おこしプロジェクト」を創設

2 プロジェクト始動までの経過

募集(6月) 27団体から応募

選定(7月) 3団体を決定

8月30日 キックオフミーティング開催!

9月~ 本格始動!



キックオフミーティングの様子



3 プロジェクト推進に向けた区の側面支援

補助金の交付

1事業あたり年間100万円を上限に最大3年度まで補助金を交付

専門家の派遣

デザイン、広報、マーケティングなど、事業実施に役立つノウハウを持つ専門家を現場に派遣



区若手職員をプロジェクト推進担当に任命

事業の実施にあたる区職員を現場に派遣。ともに考え、ともに行動する。



1 Nerima 若手 Chefs Club

都市農業の魅力創造
～味(ビ)ストロねりま～事業

NERIMA
Chefs Club



都市農業の新たな魅力を提案し、
「練馬の都市農業ってかっこいい！」のムーブメントを巻き起こす

練馬野菜の良さを誰よりも熟知している
区内飲食店シェフが新レシピを開発
新レシピを区内外フードイベントに出店
音楽、アートなど異業種とコラボした、
主催フードイベントを開催

区民と区との協働

区職員

2 東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻

地域共生社会の高齢者支援における
コンビニとの協働モデル構築事業

認知症のお客様に
どう対応したら
いいんだろう？

気になるお客様が
いるときに誰に相談
すれば？



A-4 あなたは・・・
コンビニアルバイト
配食をしている独居高齢者のお宅で、いつもはすぐに出てきてくれるが、今日はチャイムを3回も鳴らしても全く反応がない。家の電気は点いていて、鍵も開いているようだ。
ドアを開けて声をかける？
YES (開けて声をかける) NO (一旦帰る)

コンビニで実際に起こった事例をもとに、開発したカードゲーム

コンビニを、地域ぐるみで認知症高齢者を見守る支援拠点とする

認知症について学べるカードゲーム形式の訓練プログラムを開発
コンビニ店員等への研修を実施
高齢者相談センター(地域包括支援センター)との連携を強化
産学官の協働による、新たな練馬モデルとして、全国への普及を目指す

1 事業のサポート

事業ごとに全庁から意欲ある若手職員を募集・配置
事業実施団体とともに考え、ともに行動し、活動を伴走支援

2 人材育成

職員が現場に出向くことで、自ら地域の課題を発見し、区民とともに考え、解決する力を身につける
現場感覚や区民への共感を養い、区民目線で考えられる職員を育成

3 ままのがっこ

ダイバーシティ発信基地
「I(アイ)LDK(エルディーケー)」事業

アイ
I LDK
Inclusive Learn Dining Kitchen

江古田地域に、互いの存在と価値観を尊重し合い、豊かさを広げる
コミュニティ拠点をオープン！

障害者は特別な存在ではない！
多様性を尊重する地域づくりを推進する

学生・アートのまち江古田に、知的障害者が、自分らしく、いきいきと人生を楽しみ、地域と共生できる暮らしを支える、地域の交流拠点を開設
学生や地域住民と、障害者がともに参加・体験できる音楽・美術ワークショップを開催

特別養護老人ホーム等の開設

～ 施設・在宅サービスを選択できる地域づくりに取り組みます



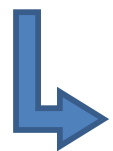
練馬の丘キングス・ガーデン

施設数都内 1

「特別養護老人ホーム」2施設204床を開設

施設名・所在地	設置主体	施設概要	施設内容	開設日
練馬の丘キングス・ガーデン【練馬2丁目】 区有地を活用	社会福祉法人 キングス・ガーデン東京	鉄筋コンクリート造 地下1階地上2階建	特養 96床 ショートステイ 12床	平成29年8月1日
練馬さくらの杜【土支田2丁目】	社会福祉法人春和会	鉄骨造 地上6階建	特養 108床 ショートステイ 12床	平成29年8月1日

上記2施設を加えて【今後の整備予定】



**29か所
2068床**
(平成29年8月現在)

- 29年度はさらに、上石神井3丁目の国有地などを活用し、2施設(計123床)で工事を開始
- 30年度はさらに、2施設(計80床)の整備に着手予定
- 今後も、土地所有者に対する土地活用セミナーや公有地の活用などを進め、整備を促進



今後の整備予定を加えると

**33か所 2271床に！
(予定)**

住み慣れた区内で
入所できます

整備数都内 1

24時間の訪問介護看護サービスを行う事業所を開設

事業所名・所在地	運営法人	開設予定日
定期巡回めぐみの会光が丘【田柄3丁目】	株式会社メディカル・アート	平成29年10月1日



計8事業所で
約160人
受け入れ可能に

高齢者の在宅療養生活を支える大きな柱として、24時間365日、必要に応じて、ヘルパーによる食事・入浴などの介助や、看護師による医療的ケアを受けられるサービスを提供(区内8か所目)

練馬区オリジナルロコモ体操「ねりま ゆる×らく体操」

みんなが集まる場所で、みんなといっしょに取り組む事業

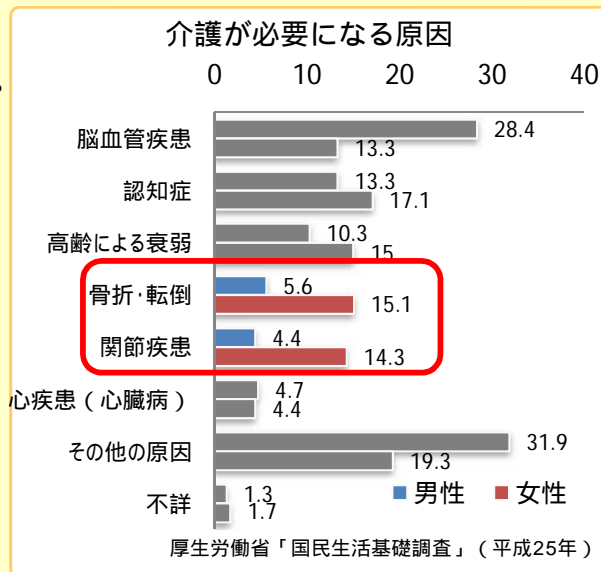
11月の練馬区
介護週間にて披露

【ロコモ予防につながる体操創作の経緯】

・転倒・骨折の原因となるロコモティブ
シンドローム（ロコモ）は、予防が重要。

加齢に伴い筋力や運動機能が衰え、
日常動作の能力が低下してしまう状態

- ・ロコモ予防のポイントは、日々の生活
で意識しながら、継続的に取り組むこと。
- ・いままでの区事業は、講座中心で回数・
参加人数の増に限界。
委託事業者のプログラムで、区が自由に
周知できない。
- ・内容が比較的ハードで元気高齢者向き。



「ねりま ゆる×らく体操」の特徴

バランス運動・筋力トレーニングが中心。ピアノの音楽に合わせて動く。31の動きを組み合わせた約10分のプログラム。「基本バージョン」と座ってできる「軽めバージョン」の2パターンがある。

「ゆる×らく体操」名前の由来

運動が苦手な人でも無理なく「ゆるく」でき、日常生活が「楽に」なる。

「ゆる×らく体操」のポイント

その 日常動作が楽になる

痛みの原因となる動作の歪みや
ねじれの癖を修正し、立ち上がり
りなどの動作を楽にする。

その 生活に取り入れやすい

動作は1つで行っても効果がある。
すき間時間に実施可。
簡単で覚えやすいのも特徴。

体操の一例～すわろうかなスクワット（すわスク）

前傾してひざを曲げ、椅子に座る直前で立ち上がる動作。

膝とつま先の
向きを正面に

重要
膝はつま先
より出ない！

繰り返す（4回）

もも・お尻
・背筋に
効果あり！

足を肩幅に開く。
両手を前に上げて、手のひらを上に向ける。
腕は肩の高さくらい。
股関節から前傾し、椅子に座るようにひざを曲げる。

区オリジナル ロコモ体操の 創作・普及啓発

便利に
気軽に

場所を選ばずどこでもできる、
運動が苦手な人も、筋力が
低下している人でも誰でも
できる内容

みんな
一緒に

身近な
ところで

目標
団体数
50団体

介護事業者やNPO団体、町会やサークル等、様々な
場所で、仲間同士で行えるよう団体を支援

8月1日
制度スタート

骨髄移植ドナー支援制度の創設

働き盛りの世代の登録を後押しするため、区内在勤・在学者へ助成を実施（**全国初**）

【骨髄移植ドナーを取り巻く環境】

提供の壁 「仕事を休むこと」が負担

骨髄等の提供のため、約7日程度の入通院が必要。
ドナー側から断る理由の約3割は「都合がつかない」。

【都合がつかない理由の内容】

休みが取れない / 有給のドナー休暇制度がない / 収入問題等
特に20・30代では「都合がつかない」の割合が高い。
20代男性は約4割を占める。

提供の壁 年齢

提供可能な年齢は、20～55歳。
今後、ドナー登録の減少が懸念。

支援制度の概要

対象

日本骨髄バンクの骨髄バンク事業において骨髄・末梢血幹細胞を提供する下記の方々

練馬区民

同様の制度がない区市に住む

練馬区在勤・在学者

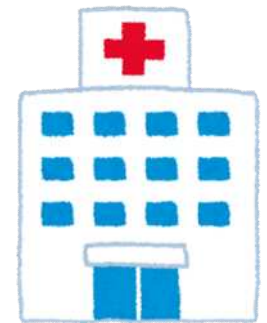
の該当者が勤務する事業所

助成額

骨髄等の提供に要した入通院に応じて
（**通算7日を上限**）

ドナー：1日あたり2万円

事業所：1日あたり1万円



働き盛りの世代の負担を軽減し
ドナーの登録・提供を後押し

ドナー本人へ

提供までに必要な入通院に要した日数に応じて、助成

ドナー本人や
家族の
負担を軽減

事業者へ

区内に大学が3つあり、中小企業も多いことから、在勤者・在学者も助成の対象

事業者の負担を軽減
社会的理解の醸成

ドナーが勤務する事業者に対して助成



1 現状

手帳保持者数 30,890人
(身体障害者手帳20,163人、愛の手帳4,686人、精神障害者保健福祉手帳6,041人(H29.4現在))

練馬区は23区の中でも先進的に、保護者の方々や民間事業者との協力により、障害者福祉を推進してきた。

充実した障害福祉サービス・障害児福祉サービス

23区1位

福祉園の数(8園)、

23区3位

日中活動系サービスの数(77か所)、

23区2位

訪問系サービスの数(371か所)

23区2位

児童発達支援事業・放課後等ディサービスの数(54か所) など

障害児のための特別支援学校

区内4校

区と民間団体の連携

公益財団法人アイメイト協会の庁内訓練



【練馬区障害者基礎調査報告書 平成26年3月】

・練馬区に「住み続けたい」という**定住意向**が強い。

(身体障害者75.3%、知的障害者65.7%、精神障害者76.3%、難病患者82.1%)

【障害者の住まい方に関する調査報告書 平成29年3月】

・5年後、10年後について、「家族と暮らしたい」「一人で暮らしたい」と**地域での生活を希望**する方が多い。

(身体障害者86%、知的障害者76.1%、精神障害者85.6%、難病患者93.9%)

2 課題

- ・障害者の高齢化・重度化が進み、家族の高齢化も同時に進行するなか、障害者一人ひとりをどう支えていくかが大きな課題
- ・障害者や障害児の方々が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、**その人のライフステージに応じた支援**の提供が求められている。

障害者・障害児にとって、住み心地がよく、住み続けたい街へ

3 目指す主な取組

- (1) 就労に伴う環境変化により生じる体調不良や金銭管理などの課題を解決するため、生活面を支援する「**就労定着支援**」などにより、障害特性に応じた就労を支援
- (2) 障害者の高齢化や重度化、介護者である家族の高齢化が進んでも地域で安心して生活するため、「**地域生活支援拠点**」を整備
- (3) 医療的ケアが必要な未就学児へ早期療育の提供と保護者の就労を支援するため、「**重症心身障害児等を支援する児童発達支援事業所**」を開設

(1) 就労定着支援

障害者との相談を通じて生活面での課題を把握
就労先や自宅等へ訪問して指導・助言等の支援を実施



(2) 地域生活支援拠点

相談（夜間・休日を含む）
グループホーム等体験の機会・場
緊急時の受入れ・対応
専門性を持った人材の育成
地域の事業者や関係機関の体制づくり



(3) 重症心身障害児等を支援する児童発達支援事業所

重症心身障害児や医療的ケア児の発達を早期に支援
長時間の療育により親の就労を支援



4 第五期障害福祉計画・第一期障害児福祉計画策定

- ・現在策定中の「第五期障害福祉計画」「第一期障害児福祉計画」では、これらの課題への対応を反映
- ・必要な障害福祉サービス、障害児・保護者を支援する障害児福祉サービスについて、平成32年度までのサービス供給見込み量を明示
- ・12月に素案を公表し、パブリックコメントを経て年度内に成案化